教頭通信

見方が変われば、見えるものも違ってきます。ちょっと立ち止まる機会になれば幸いです。

6月30日

NO. 13

仲のよさは揃う時間でわかる

学級の仲のよさを何で判断していますか？一番分かるのが，揃うまでの時間です。自分勝手な事をしているとなかなか揃いません。話を聞かないで他の子としゃべっていたり，他事をしたりしていると話の内容が分からず，次の行動に移るのに時間がかかります。聞く姿勢がよいと次の行動に移る時間や揃う時間が早くなります。これが学級集団の凝縮力となります。早く揃うようにするために数を数えることがあります。これは，使い方次第ではかなりの効果があります。また，いろいろな場面で利用することが出来ます。

＜数の数え方＞
昇順で数える。（１，２，３，４，５・・・・）
　いくつ数えると揃うか，実態をつかむときに利用します。
降順でかぞえる（・・・，５，４，３，２，１，０）
　目標を実行できるかどうか，確かめるときに利用します。

（子どもたちが自分たちで決めた目標ならば，達成しようと個々が頑張ります。そして，一緒に頑張ろうと仲間の助け合いが生まれます。）

仲間と関わりをもつ子どもが多い場合は，少しでも少ない数で揃えようと頑張りますが，「私には関係ない。」「私は，出来ているからいい。」などと思っている子がいると，数を昇順で数えても早く揃いません。

降順で数えると揃った状態が０になります。その姿のイメージができているので自分が揃っているだけでは揃ったことにならないことが分かっているので，仲間への働きかけが多くなります。

そこで，「揃う時間が早いほど，学級の仲良しだよ。」と子どもに告げ，どの程度の時間がかかるのかを調べます。揃うまでの時間が分かれば，今度はそれをどの程度にするのか，子どもたちと決めます。そして，決めた数を目標に全員ができるまで目標を変えないで取り組みます。そして，全員が揃ったら新たに数を減らして目標を再度決めます。教師の納得できる数まで減らすように努力していくうちに子どもたちの反応もこちらの願いに合った姿になります。

＜数を唱える場面＞
- 揃って立つ・・・・・・「起立」の合図から全員が立つまでの時間
- 揃って挙手・・・・・・自分の考えを挙手で全員が表せるまでの時間
- 集合の合図で並ぶ・・・「集合」の合図から全員が整列して座るまでの時間
- 話し手が話す・・・・・指名されてから，全員が「聞く」姿になっているのを確認し話し始めるまでの時間
- 教師が話す・・・・・・教師が子どもの前に立ち，全員の聞く姿を確認して，話し始めるまでの時間

多くの場面で利用できるが，いくつも一度に挑戦するより１つのことが徹底できるまで，粘り強くし続ける。そして，１つできたら他の場面に応用する。

＜数を数える時の配慮＞
- 降順で数える時，数える早さを加減し，意欲を盛り上げる。
- 遅れる子を見つけながら，その子を支えようとする子はいないか探す。
- 揃ったときに「当たり前」にしないで，必ず評価をする。
- 評価の内容（子どもだけでできたこと，〇〇さんの声かけがあったこと，自分から早くする工夫をしたこと，急ぐ姿を見せたこと等）を活動後に必ず示す。
- できた時に子どもと一緒に喜びを表現する。